

# 教育長賞

堺市立 野田中学校 三年

中尾 優

## 子供の成長過程に目を向ける

毎日のように暗いニュースを耳にします。虐待、いじめ、自殺など。なぜそのような事件が起きるのでしょうか。私は、子供の成長過程に目を向けました。そして、私が思う大切なことについて考えてみました。

小学校四年生の時、円形脱毛症になりました。気づいたのは、毎朝髪の毛を結ってくれていた母でした。私には、行動を共にする同級生がいましたが、その子はとても意地悪でした。毎日のように人の傷つくことを平気で言ったり、悪口を言ったり、仲間外れにしていました。自分もこの子と同じような人間だと思われるのが嫌でしたが、何度かその子から嫌がらせを受けた私は、自分も悪口を言われたりするのが怖くて、なかなか離れたくても離れられずにいました。毎日のストレスが円形脱毛症という形で現れたのでしょうか。しかし、幸いこの症状は大人の目に留まりました。このことがきっかけで、私は勇気を出して意見を言えるようになりました。ここで私が実感したことは「言わないと伝わらない」ということです。

意見を言うことはとても勇気のいることです。自分の言っていることが間違えていたらどうしよう、反対意見が多かったらどうしよう、など、いろいろ考えてしまうことが多いです。でも、言わなければ相手に伝わらないし、何も解決しません。人の意見は様々です。そして、誰かが勇気を出して発言したなら、他の人はまずそれを聞き、受け止めるべきです。なぜその人がそのような考え方をしたのか考えることで、違った角度で物事を見ることができ、新しい発見にも繋がります。意見を言い合える環境をつくるのができたら、素晴らしいと思います。

あの時、母が私の円形脱毛症に気づいてくれなければ、私は今でも弱い人間だったかもしれません。気づいてくれたから、勇気を出して言うことができ、解決へ繋がったのだと思います。大人の目はとても重要なのだと私は思いました。そして、次に大人の目について考えました。

私は、もっと子供に対する大人の目を増やすべきだと思います。近年、女性の社会進出や、一人親家庭、核家族などにより、放課

後、一人で過ごす子供が増えています。親の愛情を受けて育つ子供にとって、一人でいることは、人格形成にも大きな影響を与えてしまうと思うし、うまく他人とコミュニケーションを取ることができず、ストレスを溜めてしまう子供も多いのではないのでしょうか。現代の社会において、一人でいると必然的にインターネットで社会と繋がる機会が増えてしまいます。それが大きい事件を引き起こす原因となっていることも多いです。これらを防ぐため、みんなで集まって遊んだり、大人に勉強を見てもらえるような場所を増やすべきだと思います。そうすることで、子供が一人でいる時間を少しでも減らすことができ、子供が関わる事件を減らすことに繋がると思います。要するに、家庭内だけでなく、地域で子供を守ることが必要だと感じます。場所をつくるということに限らず、例えば、見守り隊の方たちの存在も大きいと思います。いつも登下校の時間になると危険な交差点などに立って私たちを安全に誘導してくれています。一人で下校しなければならなかった心細い時も、見守り隊の方がいてくれて「おかえり」と声をかけてくれるだけで安心することができました。このような地域の大人の目は偉大で、事件や事故の防止に繋がっていると思います。最後に、教育について考えました。現在、SDG s が世界で大きく取りあげられておりその中の一つに「質の良い教育をみんなに」という目標が掲げられています。ノーベル平和賞を受賞した

マララ・ユスフザイは「一人の子供、一人の教師、一冊の本そして一本のペンが世界を変えるのです。」と、教育が平和に繋がると訴え続けています。日本には武器はないけれど、考え方は同じだと思います。

高学歴社会である現代の日本では、中学校のみ終了した人は就ける仕事が多く限られる、低収入で働かされるなど、様々な不利益が生じてしまいます。これらのことから、教育を受けることはとても大切であり、貧困の連鎖を断ち切るための効率的な方法の一つだと思います。

私はまだ中学生で、「大人の目」に守ってもらおう立場であり、自分の力で行えることは少ないと思うけれど、このような社会問題に目を向け、常に意識しながら生活していきたいと思っています。そして、今後このような活動の場に積極的に参加し、社会に役立つ人間になるように心がけていきたいです。

